



第54回全国(広島)大会にて

# 迎春

## 断酒

# みどりの友

発行所 呉みどり断酒会  
 事務局 呉市 押 込 5-12-25  
 渡部 憲方  
 郵便番号 737-0915  
 電話 33-5571  
 発行人 渡部 憲  
 編集代表 石橋 剛  
 印刷 松広印刷(株)

# 本年も宜しくお願ひ申し上げます



『年賀状』

会長 渡部 憲

**新年明けましておめでとございませう。**昨年2月には八百余名の多勢の仲間祝福されての創立50周年記念大会。感動の余韻に浸つて居る間もなく、秋には全国広島大会。多くの仲間を支えられて今の私が、今のみどり会があることを、これほど身に沁みて感じた年はなかつたように思う。

全国各地の断酒仲間、また70歳のこの年まで、たったの一度も同窓会出席を断わり続けている小学校同級生に、年賀状を書いた。私と妻は、奥出雲町の小さな村の同級生である。13人の中の2人である。

10年ほど前の、ある土曜例会。例会中、お尻の携帯がひっきりなしにブルブル鳴る。(あゝ、多分同級生からだな?)。その日は、小学校同級生の60才還暦同窓会であった。例会が終わる帰宅すると、今度は電話が鳴りつ放しである。「ケン、わしじやマサトじや。皆んな集まつちよるぞ。お前、禁

酒か断酒会か知らんけど、幼な友達付き合いなんて、そんなもんじゃなかるうが!? わしらは兄弟みたいなもんじやろうが? わしらが顔を合すのは、最後かもしれんぞ!? お前が無理なら、ハルミちゃん(妻)だけでも帰らせや! 皆んな会いたがつちよるぞ!!。かなり酔つてはいるが、激しい口調で怒つていた。マサトの言う通り、もう何十年も会つていない友もいる。ひよつとしたら、もう一生会えずに……。

辛かつた。すぐにも車を飛ばして行きたかつた。こんな病気になるたばかりに、自分も妻までも顔を出せなくなつたのが口惜しく……。

13人のガキ大将だった私。ハルミはアイドル(?)だった。「わしも、ハルミも元気だ。すっかり爺、婆アになつたがのお。お互いに長生きしようぜ!!」。書いていながら何故か胸が熱くなつた「年賀状」である。

# 呉みどりヶ丘病院 創立47周年記念特院体験発表



中島 節子  
(家族)

皆さん、こんにちは。呉みどり断酒会家族会員の中島節子です。

本日は、呉みどりヶ丘病院創立四十七周年まことにおめでとうございます。この佳き日に体験発表の機会を与えて頂き、ありがとうございます。

さて、私は中島和明の妻として、呉みどりヶ丘病院にご縁を頂いたのですが、私が当院を知ったのは二十歳の頃にさかのぼります。私は中学・高校の頃、父のお酒で悩んでた時期があります。この世の中にお酒が無ければいいのと思っていました。その後、地元の養護施設で働くようになってみどりヶ丘病院の存在を知りました。しかし、私は父のためにこの坂道を上ることは出来ませんでした。それだけの勇氣と知識が無かったのです。

こんな私ですが、二十六歳の時、



主人と結婚しました。酒が好きなのは知っていました。根は悪い人ではないと思いましたが、もしかしたら、酒が無ければいいのに思っていた私自身が夫はお酒の或る生活にどっぷり馴染んでいたのかもしれない。それでも、最初は飲むと陽気になる主人の酒は悪い酒ではありませんでした。はじめのうちは、量を決めて飲んでいましたが、やはりそれでは足りなかったのでしょうか。自分で注いで飲むコップ酒になりました。美味しそうに飲んでいました。

最初におかしいと感じたのは、機嫌よく飲んでいて主人が急に会社の同僚や近所の人、仕舞には私や私の身内を悪く言い出した時です。驚いて振り返ると、眼のすわった顔の相が変わった主人が居ました。その頃、新聞にアルコール依存症の記事が載っていました。

「\*酒で仕事を休んだことがありますか? \*今日は飲むまいと思っても飲んでしまいますか? 等々」  
全てが当て嵌まります!!。その頃、病を得て床に就いていた主人の母

が「和明、その酒を何とかせんと後で大変なことになるで:!!」とよく叫んでました。主人は、笑って聞いていました。私もどうにかしなければと思うようになり、酒の買い置きをやめました。毎日2本のワンカップを買って来て、「これで:」と主人の前に置きました。

かえって、その頃から主人の隠し酒が始まったように思います。  
四十歳になった頃には連続飲酒、仕事を転々とし、飲酒運転をし、身体を壊す、どうにもならない酒になりました。心配の絶えない生活にならなくてとは、強く思うようになり、

主人にはその気はなく、近所の医院の先生に相談しても「酒なら二合、ビールなら大瓶一本:」と諭される始末で「それなら、困っている家族はどうすればいいんですか? :」と、食って掛かったように思います。或る日の夕食後、様子がおかしく、そわそわしていたかと思うと、目の前で癲癇を起こして倒れました。そんなことが何度も続いて、さすがに主人もみどりヶ丘病院に行くことに同意してくれました。あの日のことは、忘れることは出来ません。

長尾前院長先生は診察するなり、私を見て「この人は、酒を止めなくてはならない人だ:!!」と言われました。これまで、酒を止めるということを教えて下さる人は居ませんでしたが、困り果てていた私でさえ、控えて欲しいと思っていました。前院長先生の言葉は、耳から入って私の身体を中心にストンと治まりました。やっと、わかって下さる人に出会えたという気がしました。主人は、即入院となりました。平成七年、主人四十七歳の時です。三ヶ月経って退院となりましたが、帰る車中で「酒がやめられるかい:」と嘔きました。果たして、翌日から以前にも増し

て飲み、僅か十日で再入院となりました。

まだまだ、私は甘かったのです。《病院へ繋がったことで、少しは考えてくれるだろう、これで助かるだろう：》と思っていたのです。退院する際、前院長先生から「困ることがあつたら、相談に行くように：」と仁方の大先輩の名前を聞かされていました。家を尋ね、断酒会に導いて頂きました。断酒会で《家族の協力が大事、家族が諦めたら助からない、何時かは解かってくれるから：》と励まされ、一人でぼちぼち通っていました。しかし、はじめから前向きだったわけではありません。断酒会を知って二〜三年の頃だと思えます。五月の連休の或る日、酔い潰れて寝ている主人を《息をしよるんじやろうか：？》と二十分おき、十分おきに様子を見に行っていました。どうにも耐えられなくなつて家を出ました。以前、友達が家族と行つて「花が綺麗だったよ」と言っていた四国の佐田岬に行つてみようとフェリーに乗りました。必死で車を走らせましたが、離れても不安は募るばかりで、心は解放されませんでした。《自分の幸せは、

自分達の生活は、自分で守らなければ：!!》と思いました。おそろおそろ家に帰ると、主人は朝と同じ格好で寝ていました。

その頃の私は、少しでも元気なうちに、早く止めて欲しいと、そればかり思っていました。しかし、それを言葉にして伝えることは、怖くて言えませんでした。酒を挟んでの主人と私の溝は埋まりませんでした。《何時かは解つてくれるだろう：!!》と待つしかありませんでした。勉強させて頂いた今なら、別の対応のしかたがあつたのにも思います。《酒を止めて欲しい：》という一言をきちんと伝えられたら良かったのにも思えます。それが出来なかつた私は、《



一家の大黒柱なのに、夫なのに、父親なのに：》と心の中で攻め、時々、そして度々態度に表していたように思います。

呉みどり断酒会創立三十五周年記念大会の当日、朝から無理矢理酒を断つて出席していた主人は、酒を求めて抜け出し、倒れてみどりヶ丘病院へ運ばれていました。意識混濁となり、前院長先生の計らいで国立呉医療センターへ転院させて頂きました。頭を強く打つたため、硬膜下出血を起こしているとのことでした。幸い回復し、退院したその足で、みどりヶ丘病院に入院させて頂きました。これが、今となつては最後の入院となりました。都合七年間で七回の入院を繰り返し、主人五十二歳、十五歳と十二歳だった子供達は、二十二歳と二十歳になってました。退院する時、さすがに同じ事を繰り返してはいけなかつたと思いましたが、何かを変えなくては、しかし主人を変えることは出来ません。《家族が変わらなければ：!!》と聞かせて頂いてましたが、一朝一夕には私も態度を改めることは出来ません。変えられるところを変えてみようと思いました。前院長

先生は御所感の中で《\*アルコール依存症は病気だということ。\*飲んでいる本人も辛いということ》を言われてました。私は、隠れてグイッと酒を飲み干す主人の姿を見たこともあつて、主人だつたら目を掠めて酒を飲み、ペロツと舌を出しているような気がして『本人も辛い』という言葉が素直に受け容れることが出来ませんでした。でも、私は前院長先生が繰り返し言われることを信じてみようと思えました。私自身の考え方や思いを変えよう。これだけが、私に出来ることだったので。

この退院で主人は土曜例会に出してくれるようになりました。『心と身体を求めのまま酒を飲んで来た。云々：』という主人の発言を聞きました。精神依存、身体依存ということは聞いていましたが、主人自身の口から聞くと、理解出来ました。はじめのうちは、酒が入ることもありましたが『止められるかい：』と嘯いていた主人が『よう止めんで：』と言うようになりました。文字にすれば二文字か三文字の違いですが、意味合いはまったく違います。気が付いたら、一日も止められなかつた酒が、

今は飲まずに済んでいます。

子供達には本当に迷惑を掛けました。私には子供達の気持ちが痛いほどわかりました。それだけに《子供達を守らなければ》という気持ちが強かったように思います。なるべく見せないように、聞かせないように…。私自身は、不安で押し潰されそうになっても子供達の前では何でもないように振舞って来ました。しかし、子供達は、自分の眼で見、自分の耳で聞き、自身の心で感じて来ただろうと思います。酒を飲まずにいること。それだけが、親として私達に出来ることだと思えます。

今は只々、子供達と彼等に繋がる人達の幸せと主人が酒を止め続けて元気で長生き出来るように…。そして、少しでも穏やかな夫婦になれるよう、願っております。

呉みどりヶ丘病院には、何度もお世話になり、助けて頂きました。当院がこの地にあつて繋がる事が出来、本当に良かったと感謝しております。これからも、お酒で悩む人達の道標として、益々のご活躍とご発展をお祈りして、私の体験発表とさせて頂きます。

ご清聴、有り難うございました。

### 第47回山陰断酒学校

松江市玉湯町公民館に於いて、9月1～3日の三日間、第47回山陰断酒学校が全国各地から518名の朋友が参加して開催された。当会も初参加者1名を含む、会員



・家族の13名が参加した。

初参加者の誰もが経験することだが、研修中に会員さん達が語る迫力のある体験談の数々に今回初参加の盛さんも戸惑い気味の様子。

お互いに体験談を語り、聞いて断酒の大切さを再確認する2泊3日はあつという間に過ぎ、会場のあるあちこちでお世話になった朋友達と再会を約束する姿が見られた。

### 第47回 県連研修会

第47回広島県連研修会が今年も9月16～18日の3日間、国立江田島青少年交流の家に於いて、医療行政、会員・家族、県内病院の療生の121名が参加し開催。当会も、会員・家族の21名が参加。

今回は台風の直撃を受け、悪天候の中での研修だったが、例年どおり3名の先生方（長尾早江子先生、西原一樹先生、小河弘幸先生）による、精神・内科等の各分野からのアルコール依存症治療法等の現況を話される時間があり、改めて例会出席・断酒継続の大切さを見つめ直す研修会だった。



### 呉みどりヶ丘病院 創立47周年記念 第555回特別院内断酒例会

秋風を感じ始めた10月16日、呉みどりヶ丘病院に於て、会員・家族、病院職員、療養中の方達が参加し、創立47周年記念特院が開催された。体験発表者は、療養生3



名、会員2名、家族1名。当会からは、家族の中島節子さんがご主人が家族にかけた酒害、断酒会に繋がりが、ご家族と共に築いた現在の生活を語られた。その後、院長先生の記念講話で盛り上がり、盛会裏のうちに特院は終了した。

# 広島県アルコール関連問題啓発フォーラム 第54回全日本断酒連盟全国(広島)大会

朝夕過ぎし易くなつた秋日和の10月1日。広島市にある広島サンプラザホールに於いて『広島県アルコール関連問題啓発フォーラム第54回全日本断酒連盟全国(広島)大会』が2713名(医療・行政・173名、一般・321名、朋友会員・家族・2219名)の参加者が全国から集い、盛大に開催された。当会からも会員・家族・



48名が参加。大会は、テーマ「こころのふれあいをもとめて」、サブテーマ「



「いのちを大切に生きる!」に則り進められた。今大会は「アルコール健康障害対策基本法」が制定されて5年が経過し、広島県では本年3月に「広島県アルコール健康障害対策推進計画」が策定され、アルコール基本法が実施段階に移ってきた中で全国で初めて広島県断連と行政機関(広島県)が主催者に加わつた全国大会であり、アルコール基本法制定後に広島県断連が啓発活動として地域行政機関(安芸高



田市)と連携して昨年開催された『広島県断酒(安芸高田市)大会』に続く大会となった。午前の部の司会は、当会の曾根敏浩さんによつて進められ、主催者挨拶では湯崎英彦広島県知事が挨拶され、アルコール健康障害対策推進計画実施に取り進む姿勢を強調された。また、中田克宜全断連理事長は、広島県との全国大会に至つた経緯を話され、尽力して下さつた方々に感謝の意を表した。体験発表は、家族の立場から3

ら、最初に発表された中国ブロック代表の吉田裕美さんの体験は、来賓の方達の心に問いかけるもので、その後の来賓の方達の祝辞の中に裕美さんの体験発表の内容が取り上げられていた。

午後の司会は、広島県健康福祉局健康対策課参事の西丸幸治氏によつて進められ、午後の部の最初に県健康福祉局健康対策課海島照美課長によつて「広島県アルコール健康障害対策推進計画について」と題して広島県としての現況報告がされた。続いて、呉みどりヶ丘病院院長・長尾早江子先生による『アルコール関連問題からの回復をめざして』と題して基調講演が行われた。また、女優の東ちづるさんにより『心豊かに自分らしく生きる』つながる、よりそう』と題して記念講演が行われた。

プログラムは盛会のうちに進み、当会の渡部憲会長により、今大会の大会宣言が承認された後に発表された参加者数のうち、一般参加者数が321名と聞き、今までにない多くの一般の方達が集まつて頂いた結果だけでも、今大会が有意義で、今後の断酒会活動に勇気を頂いた大会であった。

